礼　拝　順　序

		司会
前奏		奏楽
招詞	詩編 96：1－2	
讃美歌	155	
交読詩編	46：1－12	
讃美歌	499	
聖書	新約　ルカ 10：25－37　（p．126　or　146　）	
祈祷		
讃美歌	535	
説教	隣人イエス	
祈祷		
讃美歌	458	
奉金	（献金・祈祷）	
主の祈り	93－5－A	
頌栄	27	
黙祷		
後奏		
報告		

◇次　週　礼　拝◇

説　教　新しい創造

聖　書　エゼキエル 9：1－4

　　ガラテヤ 6：11－18

讃美歌　155　499　542　475

　　27　練習－125

交読詩編　46：1－12

◇本日の集会◇

教会学校夏期キャンプ

於　逗子「相洋閣」

22 日（日）－24 日（火）

◇今週の集会◇

壮年会例会

28 日（土）　掃除後

発題　　「生保今昔」

◇報告とお願い◇

次主日礼拝後、聖書を読む会をいたします。

8 月の教会学校は平和月間として下記のように教会員の説教を聞いて、礼拝を守っています。ご出席ください。

22 日

説教「共に喜び、共に泣ける仲間」

29 日

説教「キリストは私たちの平和」

◇今週の誕生者◇

◇集　会　状　況◇

		男	女	計
教会学校子供	8/15	6	9	15
大人	8/15	8	10	18
主日礼拝	8/15	36	54	90

◇牧師室より◇

サンパウロ福音教会に赴任された小井沼真樹子宣教師は今秋、正教師試験を受ける。師は宣教活動を広げるためポルトガル語を習得しようと、この四月まで語学研修所に行っていた。電話をしたところ、期限が迫っている二つの論文を書くことに悪戦苦闘をしているとのことだった。先日、書き終えた二つの論文をコピーして送ってきた。師らしい柔らかな感性で体験と宣教現

場を踏まえ、高い神学的な論述が展開されて、深く感銘した。

師は、知的障害を持つお姉さんと脳疾患による身体障害を持ったお母さんと関わってきた。その困難な生活の中で、自分の醜い心を見せられ、家庭崩壊の危機も味わった。しかし、お母さんの介護が終わった時、そこに信仰の真理を見出した。それは「人間は存在そのものでよしとされている。他者の弱さと本気でつながって生きようとする時、自分の罪の現実に直面し、十字架の主による回心が与えられ、神の前に信仰の主体が確立する。それは神に愛され、自己受容できる本来の自己との出会いである」という発見であった。今一つは、夫妻でサンパウロに駐在員として赴任した時の体験である。「日本ではキリスト者として誠実に生きてきたつもりでいたが、世界の不公正な社会構造の中では日本人の自分は『良いサマリヤ人』どころか、旅人を傷つけ半殺しにしたまま立ち去った追いはぎの仲間であることが示された。そして、多くの貧しい人々の生きる姿勢を通して十字架の主イエスと出会い、逆に自分に与えられていた恵みの大きさに気づかされ、もう一度深い回心と献身への願いが与えられた。そして個人的な信仰深さでは解決のつかないこの世界の罪の構造に、世界の教会が連帯して立ち向かっていかなければと気づいたのである。」

家族を通して確立させられた個人的な信仰の主体が、ブラジルの現実に触れて世界との関係で社会的に捉え直され、二つの体験は結び合わされた。そこから「二千年前の主イエスの十字架と復活の救いに与かるためには、苦しみを負っている他者の存在とつながることが必要である」と導かれ、宣教活動に携わっていると論述している。

ブラジルは貧富の格差、失業、犯罪など、世界の矛盾が集約的に現れている。小井沼夫妻の宣教は困難であろう。しかし、夫妻の宣教と私たちの横浜での宣教は同一・同質のもので、深く結び合っている。

週　　報

1999年8月22日　聖霊降臨節第14主日

巻20　　21号

1999年度　教会主題

「互いに仕え合う」

聖　句　兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。

ガラテヤの信徒への手紙　5章13節

目　標　1．生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2．キリストの体なる教会形成に参与する。
3．教会創立20周年記念に備える。

日本キリスト教団　**横浜港南台教会**

横浜市港南区港南台7丁目8−29
郵便番号　234−0054
電　　話　045−833−5323
F A X　045−833−6616
振　　替　00290−4−13994

牧師　秋吉隆雄